

諮問第57号に関する審議結果報告案

1 審議等の経緯

(1) ヘーグ国際私法会議における経緯

ヘーグ国際私法会議においては、2000年に、口座管理機関において保有される証券に関する準拠法決定ルールを明確にするための条約を作成することが提案され、2001年1月に作業部会、2002年1月に特別委員会が開催されて、この問題についての審議が行われた。そして、これらの審議結果及び審議の過程で数次にわたって作成された暫定的な条約草案に対する各国からの意見聴取の結果等を踏まえて、2002年6月に「口座管理機関によって保有される証券についての権利の準拠法に関する条約草案」が作成された。同草案については、後述のヘーグ国際私法会議第19会期の開催前に、東京を含む世界各地で地域ワークショップが開催され、そこでも様々な議論が行われた。

そして、2002年12月2日から同月13日まで開催されたヘーグ国際私法会議第19会期において、同草案に基づき審議が行われ、その最終日に、「口座管理機関によって保有される証券についての権利の準拠法に関する条約」(以下「本条約」という。)が採択されるに至った。

(2) 我が国における経緯

我が国においても、上述の作業部会や特別委員会に政府代表を派遣して審議に参加してきたが、上述の特別委員会が開催された直後である平成14年2月13日に開催された法制審議会第136回会議において「ヘーグ国際私法会議において作成のための審議が行われている間接保有に係る証券の準拠法に関する条約の内容、その批准の要否、批准を要するとした場合には国内法整備の要否及び整備を要するとした場合には整備すべき事項の骨子につき、御意見を承りたい。」との諮問(第57号)がされ、これを受けて間接保有証券準拠法部会が設置され、同部会において審議検討を行うこととされた。同部会は、平成14年7月25日に第1回会議を開催し、以後、21回にわたって会議を開催して、本条約が成立するまでは条約草案に対する日本政府の意見や外交会議における対処方針を作成するための審議・検討を行

い、本条約の成立後は、本条約の Explanatory Report 案に対する日本政府の意見の作成のための審議・検討や、具体的な事例に則した問題点等の本条約の解釈上・実務上の論点をはじめとする、本条約の批准の要否に関する審議・検討を行ってきた。

2 本条約の内容

本条約は、口座管理機関によって保有される証券についての権利の準拠法を決定するルールを定めたものであり、このルールの主要な点は、次のとおりである。

(1) 本条約の適用範囲

本条約によって準拠法が決定される事項は、口座管理機関によって保有される証券について、証券口座への増額記録に起因する権利の法的性質及び第三者等に対する効果、口座管理機関によって保有される証券の処分の法的性質及び第三者等に対する効果、当該処分のパーフェクション（処分の当事者以外の者に対して当該処分を有効にするために必要なすべての手段の完了をいう（第1条第1項(h)）。）の要件、口座管理機関によって保有される証券に関する利益の優先関係等の第2条第1項各号に列挙された事項であり（第2条第1項）、証券の発行者の権利義務等についての準拠法を定めるものではない（同条第3項）。

(2) 準拠法決定の原則規定

(1)の事項についての準拠法は、第1次的には、口座管理契約を規律する法律として明示に合意された国の法律（口座管理契約において当該事項について他の国の法律を適用することを明示的に定めた場合には、その法律）による（第4条第1項）。

(3) 準拠法決定の補充規定

(2)により準拠法が定まらない場合には、まず、書面による口座管理契約において関連口座管理機関の特定の事務所を通じて当該口座管理契約が締結されたことが明示され、かつ、その内容が明確であるときは、当該事務所が存在する国の法律（第5条第1項）が、により準拠法が定まらないときは、書面による口座管理契約が締結された時（そのような契約がない場合

には証券口座の開設時)における関連口座管理機関の設立準拠法所属国の法律(同条第2項)が、
によっても準拠法が定まらないときは、書面による口座管理契約が締結された時(そのような契約がない場合には証券口座の開設時)において関連口座管理機関が営業所(営業所が複数ある場合には、主たる営業所)を有する国の法律(同条第3項)が準拠法となる。

(4) 準拠法の変更

(2)、(3)により準拠法が定まった後でも、当事者間の合意により、準拠法を変更することが可能である(第7条)。

(5) 本条約発効前の口座管理契約に対する本条約の適用

本条約は、本条約が発効する前に締結された口座管理契約にも、原則として適用される(第16条)。

なお、本条約の英仏正文及びその仮訳は、別紙のとおりである。

3 本条約の批准等についての意見

(1) 株式や社債等の証券の国際的な取引(譲渡や担保権の設定等)における証券上の権利の帰属等についての準拠法は、法の適用に関する通則法第13条の規定により、証券所在地法によることになると一般に考えられてきた。

しかしながら、口座管理機関によって保有される証券については、物理的な券面が中央集中的に証券上の権利の記録等を行う機関(以下「中央証券預託機関」という。日本では、株券等の保管及び振替に関する法律第2条第2項に規定する「保管振替機関」と、社債等の振替に関する法律第2条第2項に規定する「振替機関」がこれに該当する。)に預託される場合や、個別の券面を発行する代わりに「大券」という1枚の券面だけを発行してそれが中央証券預託機関に預託される場合があり、また、そもそも券面が発行されずに、中央証券預託機関や口座管理機関に証券上の権利の記録のみが行われる場合もある。そして、末端の投資家は、券面を保有せずに、証券会社や金融機関等の口座管理機関に自己名義の証券口座を開設し、当該証券口座に保有する証券の銘柄とその数等の記帳を受けることによって、証券に関する権利を保有することとされている。このような証券の譲渡やこれに対する担保権の設定は、券面の授受によらずに、証券口座に増額・減額記帳をするという

証券口座の記録の振替によって行われる。

このような口座管理機関によって保有される証券の譲渡や担保権の設定等について、上述の一般的な考え方に従って証券の所在地によって準拠法を定めるとすることは、券面が発行されている場合であっても、末端の投資家はその保有する証券についての券面がどこに保管されているかを特定することは困難であり、また、仮にその所在地を特定することができたとしても、その地が準拠法を決めるのに適当な最密接関連地ということとはできない場合が多いという問題がある。また、券面が発行されていない場合には、そもそも証券所在地自体を観念できないので、証券所在地は準拠法を定める基準とはなり得ないところ、この場合の準拠法の決定方法について、判例はなく、学説も定まっていない。

このように、国際的な証券の譲渡や担保権の設定等についての準拠法がどの国の法律となるかは不明確であって、当事者の予見可能性や法的安定性を確保することができない状況にあるところ、このような状況は、我が国のみならず特有のことではなく、世界各国においても同様の状況にある。

そこで、本条約を批准すれば、口座管理機関によって保有される証券が国際的に取引される場合における証券上の権利についての準拠法決定ルールが明確になり、取引当事者にとって予見可能性と法的安定性が高まることになることから、本条約を批准する意義は大きいものと考えられる。

また、本条約は準拠法決定ルールを定めるものであるところ、その準拠法決定ルールの内容は条約自体ですべて規定されており、国内法による補充を要する部分はないので、本条約の批准のために国内法を整備する必要はなく、本条約の直接適用によって対処することができる。

- (2) しかしながら、本条約は、証券の国際的な取引における証券上の権利についての準拠法決定ルールについて、全世界的な統一ルールを定め、口座管理機関によって保有される証券の国際的な取引についての法的安定性を高めようとするものであるため、国際的証券市場の中心であるヨーロッパ諸国及びアメリカ合衆国を含む主要国が本条約を批准しなければ、その意義は大きく減殺されてしまうところ、本条約は、その成立から5年以上が経過したにもかかわらず、2006年7月にアメリカ合衆国とスイスの2か国が署名した

のみであり，両国においても批准には至っていないことから，いまだ発効するには至っていない（第19条参照）。また，ヨーロッパ諸国においては，ヨーロッパ連合（EU）内部で本条約の検討が行われているところ，主要国を含む構成国の一部に根強い反対があり，批准の見通しは立っていない状況にある。

他方で，アメリカ合衆国とヨーロッパ連合の双方が本条約を批准するという場合には，主要な国際的証券市場において本条約が定める準拠法決定ルールが適用されることになるので，我が国の証券市場の国際的地位を維持する観点からも，これらの国々に後れることなく，本条約を我が国が批准することが必要になると考えられる。

- (3) そこで，本条約については，ヨーロッパ連合における検討の帰趨を見極めた上で，適切と考えられる時期に，我が国も批准すべきものと思料する。

CONVENTION ON THE LAW APPLICABLE TO CERTAIN RIGHTS IN RESPECT OF SECURITIES HELD WITH AN INTERMEDIARY

(Concluded 5 July 2006)

The States signatory to the present Convention,

Aware of the urgent practical need in a large and growing global financial market to provide legal certainty and predictability as to the law applicable to securities that are now commonly held through clearing and settlement systems or other intermediaries,

Conscious of the importance of reducing legal risk, systemic risk and associated costs in relation to cross-border transactions involving securities held with an intermediary so as to facilitate the international flow of capital and access to capital markets,

Desiring to establish common provisions on the law applicable to securities held with an intermediary beneficial to States at all levels of economic development,

Recognising that the "Place of the Relevant Intermediary Approach" (or PRIMA) as determined by account agreements with intermediaries provides the necessary legal certainty and predictability,

Have resolved to conclude a Convention to this effect, and have agreed upon the following provisions -

CHAPTER I - DEFINITIONS AND SCOPE OF APPLICATION

Article 1 Definitions and interpretation

1. In this Convention -

- a) "securities" means any shares, bonds or other financial instruments or financial assets (other than cash), or any interest therein;
- b) "securities account" means an account maintained by an intermediary to which securities may be credited or debited;
- c) "intermediary" means a person that in the course of a business or other regular activity maintains securities accounts for others or both for others and for its own account and is acting in that capacity;
- d) "account holder" means a person in whose name an intermediary maintains a securities account;
- e) "account agreement" means, in relation to a securities account, the agreement with the relevant intermediary governing that securities account;
- f) "securities held with an intermediary" means the rights of an account holder resulting from a credit of securities to a securities account;
- g) "relevant intermediary" means the intermediary that maintains the securities account for the account holder;

h) “disposition” means any transfer of title whether outright or by way of security and any grant of a security interest, whether possessory or non-possessory;

i) “perfection” means completion of any steps necessary to render a disposition effective against persons who are not parties to that disposition;

j) “office” means, in relation to an intermediary, a place of business at which any of the activities of the intermediary are carried on, excluding a place of business which is intended to be merely temporary and a place of business of any person other than the intermediary;

k) “insolvency proceeding” means a collective judicial or administrative proceeding, including an interim proceeding, in which the assets and affairs of the debtor are subject to control or supervision by a court or other competent authority for the purpose of reorganisation or liquidation;

l) “insolvency administrator” means a person authorised to administer a reorganisation or liquidation, including one authorised on an interim basis, and includes a debtor in possession if permitted by the applicable insolvency law;

m) “Multi-unit State” means a State within which two or more territorial units of that State, or both the State and one or more of its territorial units, have their own rules of law in respect of any of the issues specified in Article 2(1);

n) “writing” and “written” mean a record of information (including information communicated by teletransmission) which is in tangible or other form and is capable of being reproduced in tangible form on a subsequent occasion.

2. References in this Convention to a disposition of securities held with an intermediary include –

a) a disposition of a securities account;

b) a disposition in favour of the account holder’s intermediary;

c) a lien by operation of law in favour of the account holder’s intermediary in respect of any claim arising in connection with the maintenance and operation of a securities account.

3. A person shall not be considered an intermediary for the purposes of this Convention merely because –

a) it acts as registrar or transfer agent for an issuer of securities; or

b) it records in its own books details of securities credited to securities accounts maintained by an intermediary in the names of other persons for whom it acts as manager or agent or otherwise in a purely administrative capacity.

4. Subject to paragraph (5), a person shall be regarded as an intermediary for the purposes of this Convention in relation to securities which are credited to securities accounts which it maintains in the capacity of a central securities depository or which are otherwise transferable by book entry across securities accounts which it maintains.

5. In relation to securities which are credited to securities accounts maintained by a person in the capacity of operator of a system for the holding and transfer of such securities on records of the issuer or other records which constitute the primary record of entitlement to them as against the issuer, the Contracting State under whose law those securities are constituted may, at any time, make a declaration that the person which operates that system shall not be an intermediary for the purposes of this Convention.

Article 2 Scope of the Convention and of the applicable law

1. This Convention determines the law applicable to the following issues in respect of securities held with an intermediary –

a) the legal nature and effects against the intermediary and third parties of the rights resulting from a credit of securities to a securities account;

b) the legal nature and effects against the intermediary and third parties of a disposition of securities held with an intermediary;

c) the requirements, if any, for perfection of a disposition of securities held with an intermediary;

d) whether a person's interest in securities held with an intermediary extinguishes or has priority over another person's interest;

e) the duties, if any, of an intermediary to a person other than the account holder who asserts in competition with the account holder or another person an interest in securities held with that intermediary;

f) the requirements, if any, for the realisation of an interest in securities held with an intermediary;

g) whether a disposition of securities held with an intermediary extends to entitlements to dividends, income, or other distributions, or to redemption, sale or other proceeds.

2. This Convention determines the law applicable to the issues specified in paragraph (1) in relation to a disposition of or an interest in securities held with an intermediary even if the rights resulting from the credit of those securities to a securities account are determined in accordance with paragraph (1)(a) to be contractual in nature.

3. Subject to paragraph (2), this Convention does not determine the law applicable to –

a) the rights and duties arising from the credit of securities to a securities account to the extent that such rights or duties are purely contractual or otherwise purely personal;

b) the contractual or other personal rights and duties of parties to a disposition of securities held with an intermediary; or

c) the rights and duties of an issuer of securities or of an issuer's registrar or transfer agent, whether in relation to the holder of the securities or any other person.

Article 3 Internationality

This Convention applies in all cases involving a choice between the laws of different States.

CHAPTER II –APPLICABLE LAW

Article 4 Primary rule

1. The law applicable to all the issues specified in Article 2(1) is the law in force in the State expressly agreed in the account agreement as the State whose law governs the account agreement or, if the account agreement expressly provides that another law is applicable to all such issues, that other law. The law designated in accordance with this provision applies only if the relevant intermediary has, at the time of the agreement, an office in that State, which –

a) alone or together with other offices of the relevant intermediary or with other persons acting for the relevant intermediary in that or another State –

i) effects or monitors entries to securities accounts;

ii) administers payments or corporate actions relating to securities held with the intermediary; or

iii) is otherwise engaged in a business or other regular activity of maintaining securities accounts; or

b) is identified by an account number, bank code, or other specific means of identification as maintaining securities accounts in that State.

2. For the purposes of paragraph (1)(a), an office is not engaged in a business or other regular activity of maintaining securities accounts –

a) merely because it is a place where the technology supporting the bookkeeping or data processing for securities accounts is located;

b) merely because it is a place where call centres for communication with account holders are located or operated;

c) merely because it is a place where the mailing relating to securities accounts is organised or files or archives are located; or

d) if it engages solely in representational functions or administrative functions, other than those related to the opening or maintenance of securities accounts, and does not have authority to make any binding decision to enter into any account agreement.

3. In relation to a disposition by an account holder of securities held with a particular intermediary in favour of that intermediary, whether or not that intermediary maintains a securities account on its own records for which it

is the account holder, for the purposes of this Convention –

- a) that intermediary is the relevant intermediary;
- b) the account agreement between the account holder and that intermediary is the relevant account agreement;
- c) the securities account for the purposes of Article 5(2) and (3) is the securities account to which the securities are credited immediately before the disposition.

Article 5 Fall-back rules

1. If the applicable law is not determined under Article 4, but it is expressly and unambiguously stated in a written account agreement that the relevant intermediary entered into the account agreement through a particular office, the law applicable to all the issues specified in Article 2(1) is the law in force in the State, or the territorial unit of a Multi-unit State, in which that office was then located, provided that such office then satisfied the condition specified in the second sentence of Article 4(1). In determining whether an account agreement expressly and unambiguously states that the relevant intermediary entered into the account agreement through a particular office, none of the following shall be considered –

- a) a provision that notices or other documents shall or may be served on the relevant intermediary at that office;
- b) a provision that legal proceedings shall or may be instituted against the relevant intermediary in a particular State or in a particular territorial unit of a Multi-unit State;
- c) a provision that any statement or other document shall or may be provided by the relevant intermediary from that office;
- d) a provision that any service shall or may be provided by the relevant intermediary from that office;
- e) a provision that any operation or function shall or may be carried on or performed by the relevant intermediary at that office.

2. If the applicable law is not determined under paragraph (1), that law is the law in force in the State, or the territorial unit of a Multi-unit State, under whose law the relevant intermediary is incorporated or otherwise organised at the time the written account agreement is entered into or, if there is no such agreement, at the time the securities account was opened; if, however, the relevant intermediary is incorporated or otherwise organised under the law of a Multi-unit State and not that of one of its territorial units, the applicable law is the law in force in the territorial unit of that Multi-unit State in which the relevant intermediary has its place of business, or, if the relevant intermediary has more than one place of business, its principal place of business, at the time the written account agreement is entered into or, if there is no such agreement, at the time the securities account was opened.

3. If the applicable law is not determined under either paragraph (1) or paragraph (2), that law is the law in force in the State, or the territorial unit of a Multi-unit State, in which the relevant intermediary has its place of business, or, if the relevant intermediary has more than one place of business, its principal place of business, at the time the written account agreement is entered into or, if there is no such agreement, at the time the securities account was opened.

Article 6 Factors to be disregarded

In determining the applicable law in accordance with this Convention, no account shall be taken of the following factors –

- a) the place where the issuer of the securities is incorporated or otherwise organised or has its statutory seat or registered office, central administration or place or principal place of business;
- b) the places where certificates representing or evidencing securities are located;
- c) the place where a register of holders of securities maintained by or on behalf of the issuer of the securities is located; or
- d) the place where any intermediary other than the relevant intermediary is located.

Article 7 Protection of rights on change of the applicable law

1. This Article applies if an account agreement is amended so as to change the applicable law under this Convention.

2. In this Article –

- a) “the new law” means the law applicable under this Convention after the change;
- b) “the old law” means the law applicable under this Convention before the change.

3. Subject to paragraph (4), the new law governs all the issues specified in Article 2(1).

4. Except with respect to a person who has consented to a change of law, the old law continues to govern –

a) the existence of an interest in securities held with an intermediary arising before the change of law and the perfection of a disposition of those securities made before the change of law;

b) with respect to an interest in securities held with an intermediary arising before the change of law –

i) the legal nature and effects of such an interest against the relevant intermediary and any party to a disposition of those securities made before the change of law;

ii) the legal nature and effects of such an interest against a person who after the change of law attaches the securities;

iii) the determination of all the issues specified in Article 2(1) with respect to an insolvency administrator in an insolvency proceeding opened after the change of law;

c) priority as between parties whose interests arose before the change of law.

5. Paragraph (4)(c) does not preclude the application of the new law to the priority of an interest that arose under the old law but is perfected under the new law.

Article 8 Insolvency

1. Notwithstanding the opening of an insolvency proceeding, the law applicable under this Convention governs all the issues specified in Article 2(1) with respect to any event that has occurred before the opening of that insolvency proceeding.

2. Nothing in this Convention affects the application of any substantive or procedural insolvency rules, including any rules relating to –

a) the ranking of categories of claim or the avoidance of a disposition as a preference or a transfer in fraud of creditors; or

b) the enforcement of rights after the opening of an insolvency proceeding.

CHAPTER III – GENERAL PROVISIONS

Article 9 General applicability of the Convention

This Convention applies whether or not the applicable law is that of a Contracting State.

Article 10 Exclusion of choice of law rules (renvoi)

In this Convention, the term “law” means the law in force in a State other than its choice of law rules.

Article 11 Public policy and internationally mandatory rules

1. The application of the law determined under this Convention may be refused only if the effects of its application would be manifestly contrary to the public policy of the forum.

2. This Convention does not prevent the application of those provisions of the law of the forum which, irrespective of rules of conflict of laws, must be applied even to international situations.

3. This Article does not permit the application of provisions of the law of the forum imposing requirements with respect to perfection or relating to priorities between competing interests, unless the law of the forum is the applicable law under this Convention.

Article 12 Determination of the applicable law for Multi-unit States

1. If the account holder and the relevant intermediary have agreed on the law of a specified territorial unit of a Multi-unit State –

a) the references to “State” in the first sentence of Article 4(1) are to that territorial unit;

b) the references to “that State” in the second sentence of Article 4(1) are to the Multi-unit State itself.

2. In applying this Convention –

a) the law in force in a territorial unit of a Multi-unit State includes both the law of that unit and, to the extent applicable in that unit, the law of the Multi-unit State itself;

b) if the law in force in a territorial unit of a Multi-unit State designates the law of another territorial unit of that State to govern perfection by public filing, recording or registration, the law of that other territorial unit governs that issue.

3. A Multi-unit State may, at the time of signature, ratification, acceptance, approval or accession, make a declaration that if, under Article 5, the applicable law is that of the Multi-unit State or one of its territorial units, the internal choice of law rules in force in that Multi-unit State shall determine whether the substantive rules of law of that Multi-unit State or of a particular territorial unit of that Multi-unit State shall apply. A Multi-unit State that makes such a declaration shall communicate information concerning the content of those internal choice of law rules to the Permanent Bureau of the Hague Conference on Private International Law.

4. A Multi-unit State may, at any time, make a declaration that if, under Article 4, the applicable law is that of one of its territorial units, the law of that territorial unit applies only if the relevant intermediary has an office within that territorial unit which satisfies the condition specified in the second sentence of Article 4(1). Such a declaration shall have no effect on dispositions made before that declaration becomes effective.

Article 13 Uniform interpretation

In the interpretation of this Convention, regard shall be had to its international character and to the need to promote uniformity in its application.

Article 14 Review of practical operation of the Convention

The Secretary General of the Hague Conference on Private International Law shall at regular intervals convene a Special Commission to review the practical operation of this Convention and to consider whether any amendments to this Convention are desirable.

CHAPTER IV – TRANSITION PROVISIONS

Article 15 Priority between pre-Convention and post-Convention interests

In a Contracting State, the law applicable under this Convention determines whether a person's interest in securities held with an intermediary acquired after this Convention entered into force for that State extinguishes or has priority over another person's interest acquired before this Convention entered into force for that State.

Article 16 Pre-Convention account agreements and securities accounts

1. References in this Convention to an account agreement include an account agreement entered into before this Convention entered into force in accordance with Article 19(1). References in this Convention to a securities account include a securities account opened before this Convention entered into force in accordance with Article 19(1).
2. Unless an account agreement contains an express reference to this Convention, the courts of a Contracting State shall apply paragraphs (3) and (4) in applying Article 4(1) with respect to account agreements entered into before the entry into force of this Convention for that State in accordance with Article 19. A Contracting State may, at the time of signature, ratification, acceptance, approval or accession, make a declaration that its courts shall not apply those paragraphs with respect to account agreements entered into after the entry into force of this Convention in accordance with Article 19(1) but before the entry into force of this Convention for that State in accordance with Article 19(2). If the Contracting State is a Multi-unit State, it may make such a declaration with respect to any of its territorial units.
3. Any express terms of an account agreement which would have the effect, under the rules of the State whose law governs that agreement, that the law in force in a particular State, or a territorial unit of a particular Multi-unit State, applies to any of the issues specified in Article 2(1), shall have the effect that such law governs all the issues specified in Article 2(1), provided that the relevant intermediary had, at the time the agreement was entered into, an office in that State which satisfied the condition specified in the second sentence of Article 4(1). A Contracting State may, at the time of signature, ratification, acceptance, approval or accession, make a declaration that its courts shall not apply this paragraph with respect to an account agreement described in this paragraph in which the parties have expressly agreed that the securities account is maintained in a different State. If the Contracting State is a Multi-unit State, it may make such a declaration with respect to any of its territorial units.
4. If the parties to an account agreement, other than an agreement to which paragraph (3) applies, have agreed that the securities account is maintained in a particular State, or a territorial unit of a particular Multi-unit State, the law in force in that State or territorial unit is the law applicable to all the issues specified in Article 2(1), provided that the relevant intermediary had, at the time the agreement was entered into, an office in that State which satisfied the condition specified in the second sentence of Article 4(1). Such an agreement may be express or implied from the terms of the contract considered as a whole or from the surrounding circumstances.

CHAPTER V – FINAL CLAUSES

Article 17 Signature, ratification, acceptance, approval or accession

1. This Convention shall be open for signature by all States.
2. This Convention is subject to ratification, acceptance or approval by the signatory States.
3. Any State which does not sign this Convention may accede to it at any time.

4. The instruments of ratification, acceptance, approval or accession shall be deposited with the Ministry of Foreign Affairs of the Kingdom of the Netherlands, Depositary of this Convention.

Article 18 Regional Economic Integration Organisations

1. A Regional Economic Integration Organisation which is constituted by sovereign States and has competence over certain matters governed by this Convention may similarly sign, accept, approve or accede to this Convention. The Regional Economic Integration Organisation shall in that case have the rights and obligations of a Contracting State, to the extent that that Organisation has competence over matters governed by this Convention. Where the number of Contracting States is relevant in this Convention, the Regional Economic Integration Organisation shall not count as a Contracting State in addition to its Member States which are Contracting States.

2. The Regional Economic Integration Organisation shall, at the time of signature, acceptance, approval or accession, notify the Depositary in writing specifying the matters governed by this Convention in respect of which competence has been transferred to that Organisation by its Member States. The Regional Economic Integration Organisation shall promptly notify the Depositary in writing of any changes to the distribution of competence specified in the notice in accordance with this paragraph and any new transfer of competence.

3. Any reference to a “Contracting State” or “Contracting States” in this Convention applies equally to a Regional Economic Integration Organisation where the context so requires.

Article 19 Entry into force

1. This Convention shall enter into force on the first day of the month following the expiration of three months after the deposit of the third instrument of ratification, acceptance, approval or accession referred to in Article 17.

2. Thereafter this Convention shall enter into force –

a) for each State or Regional Economic Integration Organisation referred to in Article 18 subsequently ratifying, accepting, approving or acceding to it, on the first day of the month following the expiration of three months after the deposit of its instrument of ratification, acceptance, approval or accession;

b) for a territorial unit to which this Convention has been extended in accordance with Article 20(1), on the first day of the month following the expiration of three months after the notification of the declaration referred to in that Article.

Article 20 Multi-unit States

1. A Multi-unit State may, at the time of signature, ratification, acceptance, approval or accession, make a declaration that this Convention shall extend to all its territorial units or only to one or more of them.

2. Any such declaration shall state expressly the territorial units to which this Convention applies.

3. If a State makes no declaration under paragraph (1), this Convention extends to all territorial units of that State.

Article 21 Reservations

No reservation to this Convention shall be permitted.

Article 22 Declarations

For the purposes of Articles 1(5), 12(3) and (4), 16(2) and (3) and 20 –

- a) any declaration shall be notified in writing to the Depositary;
- b) any Contracting State may modify a declaration by submitting a new declaration at any time;
- c) any Contracting State may withdraw a declaration at any time;
- d) any declaration made at the time of signature, ratification, acceptance, approval or accession shall take effect simultaneously with the entry into force of this Convention for the State concerned; any declaration made at a subsequent time and any new declaration shall take effect on the first day of the month following the expiration of three months after the date on which the Depositary made the notification in accordance with Article 24;
- e) a withdrawal of a declaration shall take effect on the first day of the month following the expiration of six months after the date on which the Depositary made the notification in accordance with Article 24.

Article 23 Denunciation

1. A Contracting State may denounce this Convention by a notification in writing to the Depositary. The denunciation may be limited to certain territorial units of a Multi-unit State to which this Convention applies.
2. The denunciation shall take effect on the first day of the month following the expiration of twelve months after the date on which the notification is received by the Depositary. Where a longer period for the denunciation to take effect is specified in the notification, the denunciation shall take effect upon the expiration of such longer period after the date on which the notification is received by the Depositary.

Article 24 Notifications by the Depositary

The Depositary shall notify the Members of the Hague Conference on Private International Law, and other States and Regional Economic Integration Organisations which have signed, ratified, accepted, approved or acceded in accordance with Articles 17 and 18, of the following –

- a) the signatures and ratifications, acceptances, approvals and accessions referred to in Articles 17 and 18;
- b) the date on which this Convention enters into force in accordance with Article 19;
- c) the declarations and withdrawals of declarations referred to in Article 22;

d) the notifications referred to in Article 18(2);

e) the denunciations referred to in Article 23.

In witness whereof the undersigned, being duly authorised thereto, have signed this Convention.

Done at The Hague, on the day of 20..., in the English and French languages, both texts being equally authentic, in a single copy which shall be deposited in the archives of the Government of the Kingdom of the Netherlands, and of which a certified copy shall be sent, through diplomatic channels, to each of the Member States of the Hague Conference on Private International Law as of the date of its Nineteenth Session and to each State which participated in that Session.

CONVENTION SUR LA LOI APPLICABLE À CERTAINS DROITS SUR DES TITRES DÉTENUS AUPRÈS D'UN INTERMÉDIAIRE

(Conclue le 5 juillet 2006)

Les Etats signataires de la présente Convention,

Conscients du besoin pratique urgent, dans un marché financier mondial de plus en plus étendu, de conférer certitude et prévisibilité à la détermination de la loi applicable aux titres qui sont aujourd'hui communément détenus par le biais de systèmes de compensation et de règlement-livraison ou d'autres intermédiaires,

Sensibles, en vue de faciliter les flux internationaux de capitaux et l'accès aux marchés des capitaux, à l'intérêt essentiel qu'il y a à réduire les risques juridiques, les risques systémiques et les coûts correspondants, liés aux opérations transfrontières portant sur des titres détenus auprès d'un intermédiaire,

Désireux d'établir des dispositions communes sur la loi applicable aux titres détenus auprès d'un intermédiaire pouvant bénéficier à tous les Etats, quel que soit leur niveau de développement économique,

Reconnaissant que «l'approche du lieu de l'intermédiaire pertinent» (PRIMA) telle que déterminée par des conventions de compte avec des intermédiaires, assure la certitude juridique et la prévisibilité nécessaires,

Sont résolus de conclure une Convention à cet effet et sont convenus des dispositions suivantes:

CHAPITRE I – DÉFINITIONS ET CHAMP D'APPLICATION

Article 1 Définitions et interprétation

1. Dans la présente Convention:

- a) «titres» désigne toutes actions, obligations ou autres instruments financiers ou actifs financiers (autres que des espèces), ou tout droit sur ces titres;
- b) «compte de titres» désigne un compte tenu par un intermédiaire sur lequel des titres peuvent être crédités ou duquel des titres peuvent être débités;
- c) «intermédiaire» désigne toute personne qui, dans le cadre de son activité professionnelle ou à titre habituel, tient des comptes de titres pour autrui ou tant pour autrui que pour compte propre, et agit en cette qualité;
- d) «titulaire de compte» désigne la personne au nom de laquelle un intermédiaire tient un compte de titres;
- e) «convention de compte» désigne, pour un compte de titres, la convention avec l'intermédiaire pertinent régissant ce compte de titres;
- f) «titres détenus auprès d'un intermédiaire» désigne les droits d'un titulaire de compte résultant du crédit de titres à un compte de titres;

- g)* «intermédiaire pertinent» désigne l'intermédiaire qui tient le compte de titres pour le titulaire de compte;
- h)* «transfert» désigne tout transfert de propriété, pur et simple ou à titre de garantie, ainsi que toute constitution de sûreté, avec ou sans dépossession;
- i)* «opposabilité» désigne l'accomplissement de toute formalité nécessaire en vue d'assurer le plein effet d'un transfert envers toute personne qui n'est pas partie à ce transfert;
- j)* «établissement» désigne, par rapport à un intermédiaire, un lieu d'activité professionnelle où l'une des activités de l'intermédiaire est exercée, à l'exclusion d'un lieu destiné à l'exercice purement temporaire d'activités professionnelles et d'un lieu d'activité de toute personne autre que l'intermédiaire;
- k)* «procédure d'insolvabilité» désigne une procédure collective judiciaire ou administrative, y compris une procédure provisoire, dans laquelle les actifs et les activités du débiteur sont soumis au contrôle ou à la supervision d'un tribunal ou d'une autre autorité compétente aux fins de redressement ou de liquidation;
- l)* «administrateur d'insolvabilité» désigne une personne qui est autorisée à administrer une procédure de redressement ou de liquidation, y compris à titre provisoire, et comprend un débiteur non dessaisi si la loi applicable en matière d'insolvabilité le permet;
- m)* «Etat à plusieurs unités» désigne un Etat dans lequel deux ou plusieurs unités territoriales de cet Etat ou cet Etat et une ou plusieurs de ses unités territoriales ont leurs propres règles de droit se rapportant aux questions mentionnées à l'article 2(1);
- n)* «écrit» désigne une information (y compris celle transmise par télécommunication) qui se présente sur un support matériel ou sous une autre forme de support, qui peut être reproduite ultérieurement sur un support matériel.

2. Toute référence dans la présente Convention à un transfert de titres détenus auprès d'un intermédiaire comprend:

- a)* un transfert ayant comme objet un compte de titres;
- b)* un transfert en faveur de l'intermédiaire du titulaire de compte;
- c)* un privilège légal en faveur de l'intermédiaire du titulaire de compte relatif à toute créance née en relation avec la tenue et le fonctionnement d'un compte de titres.

3. Une personne n'est pas considérée comme intermédiaire au sens de la présente Convention pour la seule raison:

- a)* qu'elle agit en tant qu'agent de registre ou de transfert d'un émetteur de titres; ou
- b)* qu'elle tient dans ses propres livres des écritures portant sur des titres inscrits en compte de titres tenu par un

intermédiaire au nom d'autres personnes pour lesquelles elle agit comme gestionnaire, agent ou autrement dans une qualité purement administrative.

4. Sous réserve du paragraphe (5), une personne est considérée, au sens de la présente Convention, comme intermédiaire pour des titres inscrits en compte de titres qu'elle tient en qualité de dépositaire central de titres ou qui sont autrement transférables par voie d'inscription entre les comptes de titres qu'elle tient.

5. Pour des titres inscrits en compte de titres tenu par une personne en qualité d'opérateur d'un système pour la tenue et le transfert de tels titres sur les livres de l'émetteur ou d'autres livres qui constituent l'inscription primaire des droits sur ces titres envers l'émetteur, l'Etat contractant dont la loi régit la création de ces titres peut, à tout moment, faire une déclaration afin que la personne qui opère ce système ne soit pas considérée comme intermédiaire au sens de la présente Convention.

Article 2 Champ d'application matériel de la Convention et domaine de la loi applicable

1. La présente Convention détermine la loi applicable aux questions suivantes concernant des titres détenus auprès d'un intermédiaire:

a) la nature juridique et les effets à l'égard de l'intermédiaire et des tiers des droits résultant du crédit de titres à un compte de titres;

b) la nature juridique et les effets à l'égard de l'intermédiaire et des tiers d'un transfert de titres détenus auprès d'un intermédiaire;

c) les éventuelles conditions d'opposabilité d'un transfert de titres détenus auprès d'un intermédiaire;

d) si le droit d'une personne sur des titres détenus auprès d'un intermédiaire a pour effet d'éteindre ou de primer le droit d'une autre personne;

e) les éventuelles obligations d'un intermédiaire envers une personne autre que le titulaire de compte qui revendique des droits concurrents sur des titres détenus auprès de cet intermédiaire à l'encontre du titulaire de compte ou d'une autre personne;

f) les éventuelles conditions de réalisation d'un droit sur des titres détenus auprès d'un intermédiaire;

g) si le transfert de titres détenus auprès d'un intermédiaire s'étend aux droits aux dividendes, revenus, ou autres distributions, ou aux remboursements, produits de cession ou tous autres produits.

2. La présente Convention détermine la loi applicable aux questions mentionnées au paragraphe (1) concernant un transfert de titres ou d'un droit sur ces titres détenus auprès d'un intermédiaire, même si les droits résultant du crédit de ces titres à un compte de titres sont déterminés, conformément au paragraphe (1)(a), comme étant de nature contractuelle.

3. Sous réserve du paragraphe (2), la présente Convention ne détermine pas la loi applicable:

a) aux droits et obligations résultant du crédit de titres à un compte de titres, dans la mesure où ces droits et obligations sont de nature purement contractuelle ou autrement purement personnelle;

b) aux droits et obligations contractuels ou personnels des parties à un transfert de titres détenus auprès d'un intermédiaire; et

c) aux droits et obligations d'un émetteur de titres ou d'un agent de registre ou de transfert d'un tel émetteur, que ce soit à l'égard du titulaire des droits sur les titres ou de toute autre personne.

Article 3 Caractère international d'une situation

La présente Convention s'applique à toutes les situations comportant un conflit entre les lois de différents Etats.

CHAPITRE II – LOI APPLICABLE

Article 4 Rattachement principal

1. La loi applicable à toutes les questions mentionnées à l'article 2(1) est la loi en vigueur de l'Etat convenue expressément dans la convention de compte comme régissant celle-ci ou, si la convention de compte désigne expressément une autre loi applicable à toutes ces questions, cette autre loi. La loi désignée conformément à la présente disposition ne s'applique que si l'intermédiaire pertinent a, au moment de la conclusion de la convention, un établissement dans cet Etat, qui:

a) soit seul, soit avec d'autres établissements de l'intermédiaire pertinent ou d'autres personnes agissant pour l'intermédiaire pertinent, dans cet Etat ou dans un autre Etat:

i) effectue ou assure le suivi des inscriptions en comptes de titres;

ii) gère les paiements ou les opérations sur titres relatifs à des titres détenus auprès de l'intermédiaire; ou

iii) exerce autrement à titre professionnel ou habituel une activité de tenue de compte de titres; ou

b) est identifié comme tenant des comptes de titres dans cet Etat au moyen d'un numéro de compte, d'un code bancaire ou d'un autre mode d'identification spécifique.

2. Pour les besoins du paragraphe (1)(a), un établissement n'exerce pas, à titre professionnel ou habituel, une activité de tenue de comptes de titres:

a) au seul motif que les installations de traitement de données ou de comptabilité de comptes de titres y sont situées;

b) au seul motif que des centres d'appel pour communiquer avec des titulaires de compte y sont situés ou exploités;

c) au seul motif que le courrier relatif aux comptes de titres y est organisé ou que des dossiers ou des archives s'y trouvent; ou que

d) lorsque cet établissement remplit exclusivement des fonctions de représentation ou administratives, autres que celles se rapportant à l'ouverture ou à la tenue de comptes de titres, et qu'il n'a pas le pouvoir de conclure une convention de compte.

3. En cas d'un transfert de titres détenus par un titulaire de compte auprès d'un intermédiaire effectué en faveur de ce dernier, que celui-ci tienne ou non dans ses livres un compte propre, pour les besoins de la présente Convention:

a) cet intermédiaire est l'intermédiaire pertinent;

b) la convention de compte entre le titulaire de compte et cet intermédiaire constitue la convention pertinente;

c) le compte de titres visé à l'article 5(2) et (3) est le compte auquel les titres sont crédités immédiatement avant le transfert.

Article 5 Rattachements subsidiaires

1. Si la loi applicable n'est pas déterminée en vertu de l'article 4, mais qu'il ressort expressément et sans ambiguïté d'une convention de compte écrite que celle-ci a été conclue via un établissement particulier de l'intermédiaire pertinent, la loi applicable à toutes les questions mentionnées à l'article 2(1), est la loi en vigueur dans l'Etat, ou dans l'unité territoriale de l'Etat à plusieurs unités, dans lequel cet établissement était alors situé, si celui-ci remplissait la condition prévue à la deuxième phrase de l'article 4(1). Afin de déterminer s'il ressort expressément et sans ambiguïté d'une convention de compte que celle-ci a été conclue via un établissement particulier de l'intermédiaire pertinent, les éléments suivants ne peuvent pas être pris en considération:

a) une clause stipulant qu'un acte ou tout autre document peut ou doit être notifié à l'intermédiaire pertinent à cet établissement;

b) une clause stipulant que l'intermédiaire pertinent peut ou doit être assigné en justice dans un Etat particulier ou dans une unité territoriale particulière d'un Etat à plusieurs unités;

c) une clause stipulant qu'un relevé de compte ou tout autre document peut ou doit être fourni par l'intermédiaire

pertinent depuis cet établissement;

d) une clause stipulant qu'un service peut ou doit être fourni par l'intermédiaire pertinent depuis cet établissement;

e) une clause stipulant qu'une opération ou fonction peut ou doit être accomplie par l'intermédiaire pertinent à cet établissement.

2. Si la loi applicable n'est pas déterminée en vertu du paragraphe (1), cette loi est la loi en vigueur dans l'Etat, ou dans l'unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités, dont la loi régit la constitution ou, à défaut, l'organisation de l'intermédiaire pertinent au moment de la conclusion de la convention de compte écrite, ou en l'absence d'une telle convention, au moment de l'ouverture du compte de titres; toutefois, si l'intermédiaire pertinent est constitué ou, à défaut, organisé en vertu de la loi d'un Etat à plusieurs unités, mais non pas en vertu de la loi d'une unité territoriale de cet Etat, la loi applicable est la loi en vigueur dans l'unité territoriale de cet Etat à plusieurs unités dans laquelle il exerce son activité et, en l'absence d'un lieu unique, la loi de l'unité territoriale dans laquelle est situé son principal lieu d'activité, au moment de la conclusion de la convention de compte écrite, ou en l'absence d'une telle convention, au moment de l'ouverture du compte de titres.

3. Si la loi applicable n'est déterminée ni en vertu du paragraphe (1) ni en vertu du paragraphe (2), cette loi est la loi en vigueur dans l'Etat, ou dans l'unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités, dans lequel l'intermédiaire pertinent exerce son activité et, en l'absence d'un lieu unique, l'Etat, ou l'unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités, dans lequel est situé son principal lieu d'activité au moment de la conclusion de la convention de compte écrite, ou en l'absence d'une telle convention, au moment de l'ouverture du compte de titres.

Article 6 Critères exclus

Pour déterminer la loi applicable en vertu de la présente Convention, il ne peut être tenu compte des éléments suivants:

a) le lieu de constitution ou, à défaut, d'organisation ou du siège social de l'émetteur des titres, de son administration centrale ou de son lieu ou principal lieu d'activité;

b) les lieux où sont situés les certificats représentant les titres ou constituant la preuve de l'existence de ceux-ci;

c) le lieu où est tenu, par ou pour le compte de l'émetteur des titres, un registre des titulaires des titres;

d) le lieu de tout intermédiaire autre que l'intermédiaire pertinent.

Article 7 Protection des droits en cas de changement de la loi applicable

1. Le présent article s'applique lorsqu'une convention de compte est modifiée de manière à changer la loi applicable en vertu de la présente Convention.

2. Pour les besoins du présent article:

a) la «nouvelle loi» désigne la loi applicable en vertu de la présente Convention après le changement;

b) «l'ancienne loi» désigne la loi applicable en vertu de la présente Convention avant le changement.

3. Sous réserve du paragraphe (4), la nouvelle loi régit toutes les questions mentionnées à l'article 2(1).

4. Sauf à l'égard d'une personne ayant consenti au changement de la loi, l'ancienne loi demeure applicable:

a) à l'existence d'un droit sur des titres détenus auprès d'un intermédiaire né avant le changement de la loi ainsi qu'à un transfert de ces titres rendu opposable avant le changement de la loi;

b) s'agissant d'un droit sur des titres détenus auprès d'un intermédiaire né avant le changement de la loi,

i) à la nature juridique et aux effets d'un tel droit à l'égard de l'intermédiaire pertinent et de toute personne partie à un transfert de ces titres effectué avant le changement de la loi;

ii) à la nature juridique et aux effets d'un tel droit à l'égard d'une personne qui, après le changement de la loi, procède à une saisie sur ces titres;

iii) à la détermination de toutes les questions mentionnées à l'article 2(1) à l'égard d'un administrateur d'insolvabilité dans une procédure d'insolvabilité ouverte après le changement de la loi;

c) à la priorité entre parties dont les droits sont nés avant le changement de la loi applicable.

5. Le paragraphe (4)(c) n'écarte pas l'application de la nouvelle loi concernant la priorité d'un droit né sous l'ancienne loi mais qui a été rendu opposable en vertu de la nouvelle loi.

Article 8 Insolvabilité

1. Nonobstant l'ouverture d'une procédure d'insolvabilité, la loi applicable en vertu de la présente Convention régit toutes les questions mentionnées à l'article 2(1) en rapport avec tout évènement intervenu avant l'ouverture de cette procédure.

2. La présente Convention ne porte pas atteinte à l'application de toute règle de droit matériel ou de procédure en matière d'insolvabilité, telle que celle relative:

a) au rang des catégories de créances ou à la nullité d'un transfert effectué au mépris des règles sur la période suspecte ou effectué en fraude des droits des créanciers; ou

b) à l'exercice de droits à compter de l'ouverture d'une procédure d'insolvabilité.

CHAPITRE III – DISPOSITIONS GENERALES

Article 9 Applicabilité générale de la Convention

La présente Convention est applicable même si la loi qu'elle désigne est celle d'un Etat non contractant.

Article 10 Exclusion du renvoi

Au sens de la présente Convention, le terme «loi» désigne le droit en vigueur dans un Etat, à l'exclusion des règles de conflit de lois.

Article 11 Ordre public et lois de police

1. L'application de la loi déterminée en vertu de la présente Convention ne peut être écartée que si elle conduit à un résultat manifestement contraire à l'ordre public du for.
2. La présente Convention ne porte pas atteinte aux dispositions de la loi du for dont l'application s'impose même aux situations internationales, quelle que soit la loi désignée par les règles de conflit de lois.
3. Les dispositions de la loi du for imposant des conditions relatives à l'opposabilité ou se rapportant aux priorités entre droits concurrents ne peuvent être appliquées en vertu du présent article, sauf si la loi du for est la loi applicable en vertu de la présente Convention.

Article 12 Détermination de la loi applicable en relation avec un Etat à plusieurs unités

1. Si le titulaire de compte et l'intermédiaire pertinent ont convenu que la loi applicable est la loi d'une unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités,

a) la référence à «l'Etat» dans la première phrase de l'article 4(1) vise cette unité territoriale;

b) les références à «cet Etat» dans la deuxième phrase de l'article 4(1) visent l'Etat à plusieurs unités concerné.

2. Pour l'application de la présente Convention,

a) la loi en vigueur dans une unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités vise aussi bien la loi de cette unité territoriale que, dans la mesure où elle est applicable dans cette unité territoriale, la loi de l'Etat à plusieurs unités concerné;

b) si la loi en vigueur dans une unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités désigne la loi d'une autre unité territoriale du même Etat comme étant la loi régissant l'opposabilité par voie de dépôt public, d'inscription publique ou d'enregistrement public, la loi qui régit cette question est la loi de cette autre unité territoriale.

3. Un Etat à plusieurs unités peut, au moment de la signature, de la ratification, de l'acceptation, de l'approbation ou de l'adhésion, faire une déclaration énonçant que si, en vertu de l'article 5, la loi applicable est la loi de cet Etat à plusieurs unités ou de l'une de ses unités territoriales, les règles de conflit internes en vigueur dans cet Etat à plusieurs unités détermineront si ce sont les règles de droit matériel de cet Etat à plusieurs unités ou d'une unité territoriale spécifique de cet Etat à plusieurs unités qui s'appliquent. Un Etat à plusieurs unités qui fait une telle déclaration doit communiquer les informations relatives au contenu de ces règles de conflit internes au Bureau Permanent de la Conférence de La Haye de droit international privé.

4. Un Etat à plusieurs unités peut, à tout moment, faire une déclaration précisant que si la loi applicable en vertu de l'article 4 est la loi de l'une de ses unités territoriales, la loi de cette unité territoriale s'applique uniquement si l'intermédiaire pertinent a un établissement dans cette unité territoriale qui remplit la condition prévue à la deuxième phrase de l'article 4(1). Une telle déclaration n'a aucun effet sur un transfert effectué avant que la déclaration ne prenne effet.

Article 13 Interprétation uniforme

Pour l'interprétation de la présente Convention, il sera tenu compte de son caractère international et de la nécessité de promouvoir l'uniformité de son application.

Article 14 Examen du fonctionnement pratique de la Convention

Le Secrétaire général de la Conférence de La Haye de droit international privé convoque périodiquement une Commission spéciale afin d'examiner le fonctionnement pratique de la présente Convention et l'opportunité d'apporter des modifications à celle-ci.

CHAPITRE IV – DISPOSITIONS TRANSITOIRES

Article 15 Priorité entre droits nés avant et après l'entrée en vigueur de la Convention

Dans un Etat contractant, la loi applicable en vertu de la présente Convention détermine si le droit d'une personne sur des titres détenus auprès d'un intermédiaire acquis après l'entrée en vigueur de la présente Convention pour cet Etat, a pour effet d'éteindre ou de primer le droit d'une autre personne acquis avant l'entrée en vigueur de la présente Convention pour cet Etat.

Article 16 Conventions de compte conclues et comptes de titres ouverts avant l'entrée en vigueur de la Convention

1. Toute référence dans la présente Convention à une convention de compte vise également une convention de compte conclue avant l'entrée en vigueur de la présente Convention conformément à l'article 19(1). Toute référence dans la présente Convention à un compte de titres vise également un compte de titres ouvert avant

l'entrée en vigueur de la présente Convention conformément à l'article 19(1).

2. A moins qu'une convention de compte ne contienne une référence expresse à la présente Convention, les tribunaux d'un Etat contractant appliqueront les paragraphes (3) et (4) pour les besoins de l'application de l'article 4(1) aux conventions de compte conclues avant l'entrée en vigueur de la présente Convention dans cet Etat conformément à l'article 19. Un Etat contractant peut, au moment de la signature, de la ratification, de l'acceptation, de l'approbation ou de l'adhésion, faire une déclaration selon laquelle ses tribunaux n'appliqueront pas lesdits paragraphes aux conventions de compte conclues après l'entrée en vigueur de la présente Convention conformément à l'article 19(1), mais conclues avant l'entrée en vigueur de la présente Convention dans cet Etat conformément à l'article 19(2). Si l'Etat contractant est un Etat à plusieurs unités territoriales, il peut faire une telle déclaration pour l'une de ses unités territoriales.

3. Toute clause expresse d'une convention de compte qui conduirait en vertu des règles de l'Etat dont la loi régit cette convention, à appliquer la loi en vigueur dans un Etat, ou dans une unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités, à toute question mentionnée à l'article 2(1), aura pour effet que cette loi régit toutes les questions mentionnées à l'article 2(1), si l'intermédiaire pertinent avait, lors de la conclusion de la convention, un établissement dans cet Etat remplissant la condition prévue à la deuxième phrase de l'article 4(1). Un Etat contractant peut, au moment de la signature, de la ratification, de l'acceptation, de l'approbation ou de l'adhésion, faire une déclaration selon laquelle ses tribunaux n'appliqueront pas le présent paragraphe aux conventions de compte visées au présent paragraphe et dans lesquelles les parties ont expressément convenu que le compte de titres est maintenu dans un autre Etat. Si l'Etat contractant est un Etat à plusieurs unités territoriales, il peut faire une telle déclaration pour l'une de ses unités territoriales.

4. Lorsque les parties à une convention de compte, autre que celles visées au paragraphe (3), ont convenu que le compte de titres serait maintenu dans un Etat ou dans une unité territoriale d'un Etat à plusieurs unités, la loi en vigueur dans cet Etat ou cette unité territoriale s'applique à toutes les questions mentionnées à l'article 2(1), si l'intermédiaire pertinent avait, lors de la conclusion de la convention, un établissement dans cet Etat remplissant la condition prévue à la deuxième phrase de l'article 4(1). Un tel accord peut être exprès ou résulter de manière implicite des dispositions du contrat dans son ensemble ou des circonstances extérieures à celui-ci.

CHAPITRE V – CLAUSES FINALES

Article 17 Signature, Ratification, Acceptation, Approbation ou Adhésion

1. La présente Convention est ouverte à la signature de tous les Etats.
2. La présente Convention est sujette à ratification, acceptation ou approbation des Etats signataires.
3. Un Etat qui ne signe pas la présente Convention peut y adhérer à tout moment.
4. Les instruments de ratification, d'acceptation, d'approbation ou d'adhésion seront déposés auprès du Ministère des Affaires Etrangères du Royaume des Pays-Bas, Dépositaire de la présente Convention.

Article 18 Organisations régionales d'intégration économique

1. Une organisation régionale d'intégration économique constituée par des Etats souverains et ayant compétence

sur certaines matières régies par la présente Convention peut également signer, accepter et approuver la présente Convention ou y adhérer. En pareil cas, l'organisation régionale d'intégration économique aura les mêmes droits et obligations qu'un Etat contractant, dans la mesure où cette organisation a compétence sur des matières régies par la présente Convention. Lorsque le nombre d'Etats contractants est pertinent dans la présente Convention, l'organisation régionale d'intégration économique n'est pas comptée comme Etat contractant en plus de ses Etats membres qui sont des Etats contractants.

2. Au moment de la signature, de l'acceptation, de l'approbation ou de l'adhésion, l'organisation régionale d'intégration économique notifie au Dépositaire par écrit les matières régies par la présente Convention pour lesquelles ses Etats membres ont délégué leur compétence à cette organisation. L'organisation régionale d'intégration économique doit notifier sans retard au Dépositaire, par écrit, toute modification intervenue dans la délégation de compétence précisée dans la notification faite en vertu du présent paragraphe, ainsi que toute nouvelle délégation de compétence.

3. Toute référence à «Etat contractant» ou «Etats contractants» dans la présente Convention s'applique également à une organisation régionale d'intégration économique, lorsque le contexte requiert qu'il en soit ainsi.

Article 19 Entrée en vigueur

1. La présente Convention entrera en vigueur le premier jour du mois suivant l'expiration d'une période de trois mois après le dépôt du troisième instrument de ratification, d'acceptation, d'approbation ou d'adhésion prévu par l'article 17.

2. Par la suite, la présente Convention entrera en vigueur:

a) pour chaque Etat ou organisation régionale d'intégration économique au sens de l'article 18 ratifiant, acceptant, approuvant ou y adhérant postérieurement, le premier jour du mois suivant l'expiration d'une période de trois mois après le dépôt de son instrument de ratification, d'acceptation, d'approbation ou d'adhésion;

b) pour les unités territoriales auxquelles la présente Convention a été étendue conformément à l'article 20(1), le premier jour du mois suivant l'expiration d'une période de trois mois après la notification de la déclaration visée dans ledit article.

Article 20 Etats à plusieurs unités

1. Un Etat à plusieurs unités peut, au moment de la signature, de la ratification, de l'acceptation, de l'approbation ou de l'adhésion, faire une déclaration ayant pour effet que la présente Convention s'appliquera à toutes ses unités territoriales ou uniquement à l'une ou à plusieurs d'entre elles.

2. Ces déclarations devront indiquer expressément les unités territoriales auxquelles la présente Convention s'applique.

3. Si un Etat ne fait pas de déclaration en vertu du paragraphe (1), la présente Convention s'appliquera à l'ensemble du territoire de cet Etat.

Article 21 Réserves

Aucune réserve à la présente Convention n'est admise.

Article 22 Déclarations

Aux fins des articles 1(5), 12(3) et (4), 16(2) et (3), et 20:

- a) toute déclaration doit être notifiée par écrit au Dépositaire;
- b) tout Etat contractant peut à tout moment modifier une déclaration en faisant une nouvelle déclaration;
- c) tout Etat contractant peut retirer une déclaration à tout moment;
- d) toute déclaration faite au moment de la signature, de la ratification, de l'acceptation, de l'approbation ou de l'adhésion prend effet simultanément avec l'entrée en vigueur de la présente Convention pour l'Etat concerné; toute déclaration faite à un moment ultérieur et toute nouvelle déclaration prendra effet le premier jour du mois suivant l'expiration d'un délai de trois mois après la date de la notification faite par le Dépositaire conformément à l'article 24;
- e) un retrait d'une déclaration prendra effet le premier jour du mois suivant l'expiration d'un délai de six mois après la date de la notification faite par le Dépositaire conformément à l'article 24.

Article 23 Dénonciation

1. Tout Etat contractant pourra dénoncer la présente Convention par une notification par écrit au Dépositaire. La dénonciation pourra se limiter à certaines unités territoriales d'un Etat à plusieurs unités auxquelles s'applique la Convention.
2. La dénonciation prendra effet le premier jour du mois suivant l'expiration d'une période de douze mois après la date de réception de la notification par le Dépositaire. Lorsqu'une période plus longue pour la prise d'effet de la dénonciation est spécifiée dans la notification, la dénonciation prendra effet à l'expiration de la période en question après la date de réception de la notification par le Dépositaire.

Article 24 Notifications par le Dépositaire

Le Dépositaire notifiera aux Membres de la Conférence de La Haye de droit international privé, ainsi qu'aux autres Etats et aux organisations régionales d'intégration économique qui ont signé, ratifié, accepté, approuvé ou adhéré conformément aux articles 17 et 18, les renseignements suivants:

a) les signatures et ratifications, acceptations, approbations et adhésions prévues aux articles 17 et 18;

b) la date d'entrée en vigueur de la présente Convention conformément à l'article 19;

c) les déclarations et retraits des déclarations prévues à l'article 22;

d) les notifications prévues à l'article 18(2);

e) les dénonciations prévues à l'article 23.

En foi de quoi, les soussignés, dûment autorisés, ont signé la présente Convention.

Fait à La Haye, le 20..., en français et en anglais, les deux textes faisant également foi, en un seul exemplaire, qui sera déposé dans les archives du Gouvernement du Royaume des Pays-Bas et dont une copie certifiée conforme sera remise, par la voie diplomatique, à chacun des Etats membres de la Conférence de La Haye de droit international privé lors de sa Dix-neuvième session, ainsi qu'à tout Etat ayant participé à cette Session.

口座管理機関によって保有される証券についての権利の準拠法に関する条約（仮訳）

第1章 定義及び適用範囲

第1条 定義及び解釈

- (1) この条約においては、
 - (a) 「証券」とは、あらゆる株式、債券若しくはその他の金融上の証書若しくは資産（現金を除く。）又はそれらに関する利益をいう。
 - (b) 「証券口座」とは、口座管理機関が管理する口座であって、証券が増額又は減額記録されることとなるものをいう。
 - (c) 「口座管理機関」とは、営業その他の通常の活動の一環として、他の者のために又は他の者及び自己のために、証券口座を管理し、その権限に基づいて行為する者をいう。
 - (d) 「口座名義人」とは、その者の名において口座管理機関が証券口座を管理する者をいう。
 - (e) 「口座管理契約」とは、ある証券口座に関して、その証券口座を規律する関連口座管理機関との間の合意をいう。
 - (f) 「口座管理機関によって保有される証券」とは、証券口座への証券の増額記録に起因する口座名義人の権利をいう。
 - (g) 「関連口座管理機関」とは、特定の口座名義人のためにその証券口座を管理する口座管理機関をいう。
 - (h) 「処分」とは、譲渡又は担保の手段としての権利者の地位の移転及び占有型であると非占有型であるを問わず担保権の設定をいう。
 - (i) 「パーフェクション」とは、処分の当事者以外の者に対して当該処分を有効にするために必要なすべての手段の完了をいう。
 - (j) 「事務所」とは、特定の口座管理機関について、その口座管理機関の活動が継続的に行われている営業のための場所（単に一時的に営業を行うことを目的とする場所及び口座管理機関以外の者の営業のための場所を除く。）をいう。
 - (k) 「倒産手続」とは、暫定的手続を含む集団的な司法上又は行政上の手続であって、債務者の資産及び業務が、再建又は清算の目的で裁判所その他の権限を有する機関の管理又は監督下に置かれるものをいう。
 - (l) 「倒産管財人」とは、再建又は清算手続を運営する権限を有する者（暫定的に権限を与えられた者を含む。）をいい、適用される倒産法によって管理処分権を有する債務者(DIP)を含む。

- (m) 「地域的に法律を異にする国」とは、第2条第1項に掲げる事項に関して、国内の複数の地域又は当該国及び同国内の地域が、それぞれ独自の法律を有する国をいう。
- (n) 「書面」とは、有体物その他のものへの情報の記録（電信により伝達される情報を含む。）であつて、後に有体物に再現できるものをいう。
- (2) この条約において、口座管理機関によって保有される証券の処分とは、次に掲げるものを含む。
 - (a) 証券口座の処分
 - (b) 口座名義人がその口座管理機関に対して行う処分
 - (c) 証券口座の維持及び管理に関して発生した請求権について、その口座名義人の口座管理機関のために発生する法定担保権
- (3) いかなる者も、次のいずれかに該当することのみをもって、この条約の適用上、口座管理機関とみなされてはならない。
 - (a) 証券発行者のための登録者又は名義書換代理人として行為すること。
 - (b) 他の者の支配人若しくは代理人として又は単なる管理権限に基づき、その者の名義において口座管理機関によって管理されている証券口座に記録されている証券の詳細を自身の帳簿に記録すること。
- (4) 第5項に従うことを条件として、ある者は、中央証券預託機関としての権限に基づき自らが管理している証券口座に記録されている証券に関して、又は自らが管理している証券口座間でその他の手段によって記帳により移転可能とされる証券に関して、この条約上の口座管理機関であるとみなされる。
- (5) 証券の発行者の記録において、又は発行者に対する証券上の資格の第一次的記録となるその他の記録において証券を保有及び移転するためのシステムの運営者としての権限に基づいて管理されている証券口座に記録されている証券に関しては、当該証券の成立に関する準拠法所属国たる締約国は、いつでも、「当該システムの運営者は、この条約の適用上、口座管理機関とはならない」旨の宣言をすることができる。

第2条 条約及び準拠法の適用範囲

- (1) この条約は、口座管理機関によって保有される証券に関する次の事項の準拠法を決定する。
 - (a) 証券口座への証券の増額記録に起因する権利の法的性質並びに口座管理機関及び第三者に対する効果
 - (b) 口座管理機関によって保有される証券の処分の法的性質並びに口座管理機関及び第三者に対する効果
 - (c) 口座管理機関によって保有される証券の処分のパーフェクションの要件
 - (d) 口座管理機関によって保有される証券に関する利益が他の者の利益を消滅させ

- るか又は他の者の利益に対して優先するか
- (e) 口座管理機関によって保有される証券に関する利益を口座名義人その他の者と争う口座名義人以外の者に対して口座管理機関が負う義務
 - (f) 口座管理機関によって保有される証券に関する利益の換価の要件
 - (g) 口座管理機関によって保有される証券の処分が配当、収益その他の利益の分配を受ける資格又は償還金、売却金若しくは他の代わり金に及ぶかどうか
- (2) この条約は、口座管理機関によって保有される証券の証券口座への増額記録に起因する権利が第1項(a)により契約上の権利と性質決定された場合でも、その証券の処分又はその証券上の利益に関する第1項に掲げる事項についての準拠法を決定する。
- (3) 第2項に従うことを条件として、この条約は、次の事項について準拠法を決定するものではない。
- (a) 証券口座への増額記録に関して生じる権利義務のうち、純粹に契約上のもの又はその他純粹に人的なもの
 - (b) 口座管理機関によって保有される証券の処分の当事者間における契約上又はその他の人的な権利義務
 - (c) 証券の保有者との関係であるとする他の者との関係であるとするを問わず、証券発行者又はその登録者若しくは名義書換代理人の権利義務

第3条 涉外性

この条約は、異なる国の法律間の選択に関する問題のすべてに適用する。

第2章 準拠法

第4条 原則規定

- (1) 第2条第1項に掲げるすべての事項についての準拠法は、口座管理契約において、その口座管理契約を規律する法律として明示に合意された国の法律（ただし、口座管理契約によって当該事項について他の国の法律を適用することを明示的に定めた場合には、その法律）とする。ただし、この規定によって定められた法律は、関連口座管理機関が当該合意の時ににおいて次に掲げる事務所を当該国内に有する場合にのみ適用する。
- (a) 当該事務所が、単独であると、当該国若しくは他の国における当該関連口座管理機関の他の事務所又は当該口座管理機関のために行為するその他の者と共同してであるとを問わず、
 - (i) 証券口座への記録を行い、又はモニターしているもの
 - (ii) 当該口座管理機関によって保有される証券に関する支払又は法人活動を管理しているもの
 - (iii) その他証券口座を管理する営業その他の通常の業務に従事しているもの
 - (b) 口座番号、バンクコードその他の特定のための手段により証券口座を当該国に

において管理しているものとして特定されているもの

- (2) 第1項(a)の事務所は、次のいずれかであることをもって、証券口座を管理する営業その他の通常の業務に従事しているものとはされない。
- (a) 証券口座のための記帳又はデータ処理の技術的なサポートがされている場所
 - (b) 口座名義人との連絡のためのコールセンターが所在又は運営されている場所
 - (c) 証券口座に関する郵便物が作成される場所又はファイル若しくはアーカイブが所在する場所
 - (d) 証券口座の開設又は管理に関する業務以外の窓口又は管理業務のみに従事しており、かつ、口座管理契約を締結する決定権限を有しないもの
- (3) 特定の口座管理機関によって保有される証券の口座名義人による、その口座管理機関に対して行う処分については、当該口座管理機関が自分自身が口座名義人となる自己口座を管理しているかどうかにかかわらず、この条約の適用上、
- a) 当該口座管理機関を、関連口座管理機関とし、
 - b) 口座名義人と当該口座管理機関との間の合意を、関連口座管理契約とし、
 - c) 第5条第2項及び第3項の証券口座を、その処分が行われる直前に証券が増額記録された証券口座とする。

第5条 予備規定

- (1) 準拠法が第4条によって決せられない場合において、書面による口座管理契約において関連口座管理機関が特定の事務所を通じて当該口座管理契約を締結したことが明示され、かつ、その内容が明確であるときは、第2条第1項に掲げるすべての事項の準拠法は、その事務所が第4条第1項第2文に規定する条件を充たす限り、その事務所の所在する国（その国が「地域的に法律を異にする国」である場合には、その事務所の所在する地域）の法律とする。その口座管理契約において当該関連口座管理機関が特定の事務所を通じて契約を締結したことが明示され、かつ、その内容が明確であるかどうかを決するに当たっては、次の事項を考慮してはならない。
- (a) 当該関連口座管理機関に対する通知その他の文書を、その事務所において交付し、又はすることができる旨の規定
 - (b) 当該関連口座管理機関に対する法的手続を、特定の国（その国が「地域的に法律を異にする国」の場合には、特定の地域）において実施し、又はすることができる旨の規定
 - (c) 当該関連口座管理機関が、その事務所から明細書その他の文書を配布し、又はすることができる旨の規定
 - (d) 当該関連口座管理機関が、その事務所からなんらかの役務を提供し、又はすることができる旨の規定
 - (e) 当該関連口座管理機関が、その事務所において、なんらかの運営若しくは業務

を維持し、若しくは実施するものとし、又はすることができる旨の規定

- (2) 準拠法が第1項によって決せられない場合には、準拠法は、書面による当該口座管理契約が締結された時（その契約がない場合には、証券口座が開設された時）において、関連口座管理機関が設立若しくはその他の態様によって組織される際の準拠法所属国（その国が「地域的に法律を異にする国」である場合には、準拠法が所属する地域）において効力を有する法律とする。ただし、関連口座管理機関が「地域的に法律を異にする国」の法律であるが、そのうちのいずれかの地域の法律ではない法律に準拠して設立若しくはその他の態様によって組織されている場合には、準拠法は、書面による当該口座管理契約が締結された時（そのような契約がない場合には、証券口座が開設された時）において、関連口座管理機関が営業所（営業所が複数ある場合には主たる営業所）を有する地域において効力を有する法律とする。
- (3) 準拠法が第1項又は第2項のいずれかによって決せられない場合には、準拠法は、書面による当該口座管理契約が締結された時（そのような契約がない場合には、証券口座が開設された時）において、関連口座管理機関が営業所（営業所が複数ある場合には主たる営業所）を有する国（その国が「地域的に法律を異にする国」である場合には、その地域）において効力を有する法律とする。

第6条 考慮されてはならない要素

この条約に基づいて準拠法を決するに当たっては、次の要素のいずれをも考慮してはならない。

- (a) 証券の発行者が設立若しくは組織された地又は証券の発行者の法律上の所在地、その登記された事務所、経営中枢、営業所若しくは主たる営業を有する地
- (b) 証券を表章する又は証券の証拠となる証書が存在する地
- (c) 証券発行者によって又はそれを代理して管理されている証券保有者の名簿が存在する地
- (d) 関連口座管理機関以外の口座管理機関の存在する地

第7条 準拠法の変更における権利の保護

- (1) この規定は、この条約により決せられる準拠法を変更するために口座管理契約が変更された場合に適用される。
- (2) この規定において、
 - (a) 「新法」とは、変更後のこの条約により決せられる準拠法をいう。
 - (b) 「旧法」とは、変更前のこの条約により決せられる準拠法をいう。
- (3) 第4項に従うことを条件として、第2条第1項に掲げるすべての事項は新法が規律する。
- (4) 準拠法の変更に同意した者との関係を除いて、次の事項は旧法が規律する。
 - (a) 準拠法の変更前に生じた口座管理機関によって保有される証券上の利益の存在

及び準拠法の変更前に行われたそのような証券の処分のパーフェクション

- (b) 準拠法の変更前に生じた口座管理機関によって保有される証券上の利益に関し、
- (i) その法的性質並びに関連口座管理機関及び準拠法の変更前に行われた証券の処分についての関係者に対する効果
 - (ii) その法的性質及び準拠法の変更後に当該証券を差し押さえた者に対する効果
 - (iii) 準拠法の変更後に開始した倒産手続における倒産管財人に関する第2条第1項に掲げる事項の決定
- (c) 準拠法の変更前に証券上の利益を取得した者の間の優先関係
- (5) 第4項(c)は、旧法のもとで発生したが、新法のもとでパーフェクトされた利益の優先関係に対して、新法が適用されることを妨げるものではない。

第8条 倒産

- (1) 倒産手続の開始にかかわらず、この条約により決せられる準拠法は、倒産手続の開始前に生じたあらゆる事象に関する第2条第1項に掲げるすべての事項を規律する。
- (2) この条約は、次の事項に関する法準則を含めていかなる実体的又は手続的倒産法の適用にも影響を及ぼさない。
 - (a) 請求権の優先順位又は偏頗行為としての処分若しくは債権者を欺罔しての移転の否認
 - (b) 倒産手続開始後における権利の執行

第3章 一般規定

第9条 一般的準拠性

この条約は、準拠法が締約国の法律であるかどうかにかかわらず、適用する。

第10条 抵触規則の排除（反致）

この条約において「法律」とは、ある国で効力を有している法律で、抵触規則以外のものをいう。

第11条 公序及び国際的強行規定

- (1) この条約により決せられた法律の適用は、その適用の効果が明らかに法廷地の公の秩序に反する場合にのみ、排除することができる。
- (2) この条約は、抵触規則にかかわらず、国際的な場面にまでも適用されなければならない法廷地の法律の規定の適用を妨げるものではない。
- (3) この規定は、法廷地の法律がこの条約による準拠法でない限り、パーフェクション又は対立する利益の優先順位に関係する要件を課す法廷地の法律の規定の適用を許容するものではない。

第12条 「地域的に法律を異にする国」の準拠法の決定

- (1) 口座名義人と関連口座管理機関が「地域的に法律を異にする国」の特定の一地域の法律を合意した場合には、

(a) 第4条第1項第1文にいう「国」とは、当該地域をいい、

(b) 第4条第1項第2文にいう「当該国」は、当該「地域的に法律を異にする国」それ自体をいうものとする。

(2) この条約を適用する場合には、

(a) 「地域的に法律を異にする国」の一地域において効力を有する法律とは、その地域の法律及びその地域に適用される限度における当該国それ自体の法律を含む。

(b) 「地域的に法律を異にする国」の一地域において効力を有する法律が、公的ファイリング、記録又は登録によるパーフェクションの準拠法として、その国の他の地域の法律を指定している場合には、当該他の地域の法律がその事項を規律する。

(3) 「地域的に法律を異にする国」は、署名、批准、受諾、承認又は加入の時ににおいて、「準拠法が、第5条により当該国又はその地域の一つの法律とされる場合には、当該国において効力を有する国内抵触法が、当該国の法の実質法か、その国の特定の地域の実質法のいずれが適用されるべきかを決する」旨の宣言をすることができる。その宣言を行う国は、その国内抵触法の内容に関する情報を事務局に連絡しなければならない。

(4) 「地域的に法律を異にする国」は、いつでも、「準拠法が、第4条によりその一つの地域の法律とされる場合には、関連口座管理機関がその地域内に第4条第1項第2文に掲げる条件を充たす事務所を持つ場合にのみ、その地域の法律が適用される」旨の宣言をすることができる。この宣言は、その宣言が効力を生じる前に行われた処分に影響を与えない。

第13条 統一的理解

この条約の解釈に当たっては、その国際的性格及び適用の統一を促進する必要性に考慮を払うものとする。

第14条 条約の運用状況の検討

ヘーグ国際私法会議事務局長は、条約の運用状況を検討するとともに、何らかの修正が必要であるかどうかを検討するための特別委員会を定期的に招集するものとする。

第4章 経過規定

第15条 条約前と条約後の利益との優先関係

締約国においては、この条約により決せられる準拠法が、当該国において条約が発効した後に取得された口座管理機関によって保有される証券上の利益が、条約が発効する前に取得された他の者の利益を消滅させるか、又はその利益に優先するかどうかを決する。

第16条 条約前の口座管理契約及び証券口座

(1) この条約にいう口座管理契約には、この条約が第19条第1項の規定に基づいて

発効する前に締結された口座管理契約を含み、この条約にいう証券口座には、この条約が第19条第1項の規定に基づいて発効する前に開設された証券口座を含む。

- (2) 口座管理契約にこの条約に関する明示の言及がない場合には、締約国の裁判所は、第19条に基づいてこの条約がその国に対して発効する前に締結された口座管理契約に関して第4条第1項を適用するときに、第3項及び第4項を適用しなければならない。締約国は、署名、批准、受諾、承認又は加入の時に、「裁判所は、第19条第1項に基づくこの条約の発効後で、かつ、第19条第2項に基づいてこの条約がその国に対して発効する前に締結された口座管理契約については、第3項及び第4項を適用してはならない」旨の宣言をすることができる。締約国が「地域的に法律を異にする国」である場合には、当該国は、その地域のうちのいくつかについて、その宣言をすることができる。
- (3) 口座管理契約を規律する法律の所属国の法準則により、特定の国又は特定の「地域的に法律を異にする国」の一地域において効力を有する法律を第2条第1項に掲げる事項のいずれかの準拠法とする効果を持つ口座管理契約の明示の文言は、その関連口座管理機関が、その契約が締結された時において、第4条第1項第2文に掲げる条件を充たす事務所を当該国内に有する場合に限り、その合意した法律を第2条第1項に掲げるすべての事項の準拠法とする効力を持つ。締約国は、署名、批准、受諾、承認又は加入の時に、「裁判所は、当事者が口座管理契約中に他国において証券口座を管理する旨を明示していた場合には、この項に定められた口座管理契約に対して、この項の規定を適用してはならない」旨の宣言をすることができる。締約国が「地域的に法律を異にする国」である場合には、当該国は、その地域のうちのいくつかについて、その宣言をすることができる。
- (4) 第3項の適用を受ける契約以外の口座管理契約の当事者が、特定の国又は特定の「地域的に法律を異にする国」の一地域において証券口座を管理する旨の合意をしていた場合には、その契約が締結された時において、当該関連口座管理機関が第4条第1項第2文に掲げる条件を充たす事務所をその国内に有するときに限り、当該国又は当該地域において効力を有する法律が、第2条第1項に掲げるすべての事項に適用される。その合意は、明示されたものであるか、契約の文言の全体的考慮又は周回の状況から黙示されたものであるかを問わない。

第5章 最終規定

第17条 署名、批准、受諾、承認又は加入

- (1) この条約は、すべての国による署名のために開放しておくものとする。
- (2) この条約は、署名国により批准され、受諾され又は承認されなければならない。
- (3) 非署名国は、いつでもこの条約に加入することができる。
- (4) 批准書、受諾書、承認書又は加入書は、この条約の寄託者であるオランダ外務省

に寄託する。

第18条 地域経済統合組織

- (1) 主権国家によって創設され、かつ、この条約が定める一定の事項につき権限を有する地域経済統合組織は、同様にこの条約に署名し、かつ、この条約を受諾、承認又は加入することができるものとする。その場合、地域経済統合組織は、その組織がこの条約が定める事項につき権限を有する限りにおいて、締約国としての権利及び義務を有する。この条約につき締約国の数が関係する場合、地域経済統合組織は締約国である構成国の数に加えて締約国として数えられるものではない。
- (2) 地域経済統合組織は、署名、受諾、承認又は加入の時に、寄託者に対し、この条約が定める事項で構成国がその組織に権限を移譲したものを明示した書面を通知しなければならない。地域経済統合組織は、この項に基づく通知に明示された権限の分配の変更及び権限の新たな移譲があった場合には、その旨を記載した書面を速やかに寄託者に通知するものとする。
- (3) この条約で締約国と引用されている場合、文脈がそう求める場合には、地域経済統合組織にも同様に適用されるものとする。

第19条 発効

- (1) この条約は、第17条の批准書、受諾書、承認書又は加入書のうち三番目に寄託されるものの寄託の後3箇月の期間が満了する月の翌月の初日に効力を生ずる。
- (2) その後、この条約は、以下に掲げる日に効力を生ずる。
 - (a) 後にこの条約を批准し、受諾し、承認し、又は加入する国又は第18条に規定する地域経済統合組織については、その批准書、受諾書、承認書又は加入書の寄託の後3箇月の期間が満了する月の翌月の初日
 - (b) 第20条第1項の宣言によりこの条約を適用する地域については、その宣言の通知の後3箇月の期間が満了する月の翌月の初日

第20条 「地域的に法律を異にする国」

- (1) 「地域的に法律を異にする国」は、署名、批准、受諾、承認又は加入の時に、この条約をその地域の全部又は一部のみ適用することを宣言することができるものとする。
- (2) このような宣言には、この条約を適用する地域を明示する。
- (3) 第1項による宣言をしない国については、この条約は、その国の全地域に適用する。

第21条 留保

この条約に対するいかなる留保も、認められない。

第22条 宣言

第1条第5項、第12条第3項及び第4項、第16条第2項及び第3項並びに第20条の適用上、

- (a) 宣言は、書面によって寄託者に通知されなければならない。
- (b) いずれの締約国も、新たな宣言を行うことにより、いつでも宣言を変更することができる。
- (c) いずれの締約国も、いつでも宣言を撤回することができる。
- (d) 署名、批准、受諾、承認又は加入の時に行われた宣言は、その宣言を行った国についてこの条約が発効すると同時に効力が生じる。その後に行われた宣言及び新たな宣言については、寄託者が第24条に基づいて通知を行った日の後3箇月の期間が満了する月の翌月の初日に効力を生ずる。
- (e) 宣言の撤回は、寄託者が第24条に基づいて通知を行った日の後6箇月の期間が満了する月の翌月の初日に効力を生ずる。

第23条 廃棄

- (1) 締約国は、寄託者にあてた書面による通知をすることにより、この条約を廃棄することができる。撤回は、この条約が適用される「地域的に法律を異にする国」のうち特定の地域に限定して行うことができる。
- (2) 廃棄は、寄託者が通知を受領した日の後12箇月の期間が満了する月の翌月の初日に効力を生ずる。通知が廃棄の効力発生時期につきこれより長い期間を定めているときは、寄託者が通知を受領した日の後その長い期間が満了することにより効力を生ずる。

第24条 寄託者による通知

寄託者は、ヘーグ国際私法会議の構成国並びに第17条及び第18条に基づいて署名、批准、受諾、承認又は加入した他の国及び地域経済統合組織に対し、次の事項を通知する。

- (a) 第17条及び第18条の署名、批准、受諾、承認並びに加入
- (b) この条約が第19条に基づいて効力を生ずる日
- (c) 第22条の宣言及び宣言の撤回
- (d) 第18条第2項の通知
- (e) 前条の廃棄

以上の証拠として、下名は、正当に委任を受けてこの条約に署名した。

20...年...月...日にヘーグで、等しく正文である英語及びフランス語により本書一通を作成した。本書は、オランダ王国政府に寄託するものとし、その認証謄本は、外交上の経路を通じて、ヘーグ国際私法会議の第19会期の時の各構成国及び同会期に参加した国に送付する。